

OSSTech Mailman インストールガイド



OSSTech

オープンソース・ソリューション・テクノロジー(株)

更新日 2021年12月9日

リビジョン 1.5

目次

1	はじめに	1
2	システム要件	2
2.1	ソフトウェア要件	2
2.2	ハードウェア要件	2
3	パッケージ構成	3
4	事前準備	4
5	パッケージのインストール	5
5.1	依存パッケージ	5
5.2	パッケージのインストール	5
5.3	パッケージのアップデート	6
6	Mailman の設定	8
6.1	設定ファイル	8
6.2	mailman メーリングリストの作成	8
6.3	各種コマンド	8
6.4	エイリアスの作成	9
6.5	Postfix の設定	9
6.6	Apache HTTPD の設定	9
6.7	Mailman のログファイル	9
6.8	サービスの起動・停止	10
7	更新履歴	11

1 はじめに

本ドキュメントは、弊社提供の Mailman パッケージを導入するための手順書です。

Mailman パッケージのインストールの際は、必ず本ドキュメントの内容を確認してから作業を実施してください。

本ドキュメントに関する記載内容について疑問点等がある場合には、弊社サポート窓口までお問い合わせください。

2 システム要件

2.1 ソフトウェア要件

以下のいずれかの OS 環境が必要です。

- Red Hat Enterprise Linux 8 / CentOS 8 (x86-64)
- Red Hat Enterprise Linux 7 / CentOS 7 (x86-64)

2.2 ハードウェア要件

ソフトウェア要件に記載の OS が動作する以下のハードウェア環境が必要です。

- CPU: Intel Xeon 1.5 GHz 以上あるいは互換 CPU
- メモリ: 1GB 以上
- ファイルシステム:
 - /opt/osstech: 1 GB 以上 (ソフトウェア)
 - /var/opt/osstech: 10 GB 以上 (データ、ログ、保存書庫)

/var/opt/osstech は、メーリングリストに投稿するメールサイズや頻度、保存書庫利用有無を勘案しファイルシステムサイズを決定してください。

3 パッケージ構成

弊社が提供する Mailman は以下のパッケージにより構成されています。

- OSSTech ソフトウェア製品基本パッケージ
 - RHEL 8 / CentOS 8 の場合:
 - * osstech-base
 - * osstech-support
 - * osstech-daemontools-utils
 - * osstech-python
 - RHEL 7 / CentOS 7 の場合:
 - * osstech-base
 - * osstech-support
 - * osstech-daemontools
- OSSTech Mailman
 - osstech-mailman

4 事前準備

パッケージのインストールやアップデートは root のみに許可されています。本文書で提示するコマンドは root で実行することを前提とします。

弊社から提供されたパッケージ一式を /srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提とします。

5 パッケージのインストール

5.1 依存パッケージ

必要とされる OS 標準パッケージは以下となります。

- RHEL 8 / CentOS 8 の場合:
 - ksh
 - postfix
 - httpd
- RHEL 7 / CentOS 7 の場合:
 - ksh
 - python
 - python-dns
 - postfix
 - httpd

オプションの OS 標準パッケージは以下となります。

- lynx (投稿メール内の HTML パートをテキストに変換する設定を利用する場合)

5.2 パッケージのインストール

/srv/osstech/software/RPMS に弊社提供のパッケージ一式がコピーしてあることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS
# tar xzf osstech-mailman-2.1.38-81.el8.tar.gz
# cd osstech-mailman-2.1.38-81.el8
# ls
doc  install.sh  x86_64
```

install.sh スクリプトを実行することで必要な依存パッケージと弊社パッケージがインストー

ルされます。

```
# ./install.sh
```

依存パッケージは Yum リポジトリからダウンロードします。Yum リポジトリが利用できない場合は、事前に OS メディア等で依存パッケージを入手してインストールしておく必要があります。

以下の出力が得られれば、パッケージのインストールは完了です。

```
完了しました! (もしくは Complete!)
```

以上で、Mailman パッケージのインストールは完了です。

5.3 パッケージのアップデート

弊社提供のアップデートパッケージ一式が /srv/osstech/software/RPMS にコピーしてあることを確認し、以下の手順でアップデートを行ないます。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS
# tar xzf osstech-mailman-2.1.38-81.el8.tar.gz
# cd osstech-mailman-2.1.38-81.el8
# ls
doc  install.sh  x86_64
```

install.sh スクリプトを実行することで Mailman パッケージのアップデートを行うことができます。

```
# ./install.sh
```

install.sh によるパッケージのアップデート時に、下記のメッセージが出力された場合は、表示の通り、systemctl コマンドを実行してください。

```
Warning: The unit file, source configuration file or drop-ins of
osstech-mailman.service changed on disk. Run 'systemctl daemon-reload'
to reload units.
```



```
# systemctl daemon-reload
```

osstech-mailman サービスが稼働している場合、パッケージのインストール時にサービスの再起動が自動的に行なわれます。

httpd サービスの再起動は自動では行なわれませんので、httpd サービスの再起動を行いません。

```
# systemctl restart httpd
```

以上でパッケージのアップデートは終了です。

6 Mailman の設定

6.1 設定ファイル

Mailman の設定ファイルは `/opt/osstech/etc/mailman/mm_cfg.py` にあります。Mailman の初期設定はこのファイルに行ってください。

6.2 mailman メーリングリストの作成

Mailman の新規インストール時には、“mailman” メーリングリストを作成してください。

```
# /opt/osstech/lib/mailman/bin/newlist mailman
```

6.3 各種コマンド

Mailman の管理に利用する各種コマンドは `/opt/osstech/lib/mailman/bin` ディレクトリに配置されています。

例えば、サイト管理者パスワードを設定する `mmsitepass` コマンドは次のように実行してください。

```
# /opt/osstech/lib/mailman/bin/mmsitepass
新しい サイト のパスワード:
パスワード確認:
パスワードを変更しました.
```

なお、利用頻度の高い Mailman 用管理コマンドについては、`/opt/osstech/sbin` ディレクトリにもシンボリックリンクとして用意されています。

```
# /opt/osstech/sbin/mmsitepass
新しい サイト のパスワード:
パスワード確認:
パスワードを変更しました.
```

6.4 エイリアスの作成

Mailman 用のエイリアスを作成する操作は次のコマンドで実行してください。

```
# /opt/osstech/lib/mailman/bin/genaliases
```

6.5 Postfix の設定

Mailman のメーリングリストのメールエイリアスファイルは `/opt/osstech/etc/mailman/aliases`, `/opt/osstech/etc/mailman/aliases.db` に作成されます。

エイリアスファイルを Postfix が参照するようにするため、`/etc/postfix/main.cf` ファイルで `alias_maps` パラメーターに `hash:/opt/osstech/etc/mailman/aliases` を追加します。

```
alias_maps =  
  hash:/etc/aliases  
  hash:/opt/osstech/etc/mailman/aliases
```

6.6 Apache HTTPD の設定

Mailman の Web インターフェースを提供するための Apache HTTPD の設定ファイルは、`/opt/osstech/etc/apache2/conf.d/mailman.conf` に用意してあります。

設定ファイルを Apache の起動時に読み込むように、次のシンボリックリンクを作成します。

```
# cd /etc/httpd/conf.d  
# ln -s /opt/osstech/etc/apache2/conf.d/mailman.conf mailman.conf
```

6.7 Mailman のログファイル

Mailman サービスにより生成されるログファイルは `/opt/osstech/var/log/mailman` 配下に保存されます。

ログファイルのログローテート設定は、`/opt/osstech/etc/logrotate.d/mailman` にて設定され

ます。

6.8 サービスの起動・停止

Mailman サービスの起動は次のコマンドで行います。

```
# systemctl start osstech-mailman
```

Mailman サービスの停止は次のコマンドで行います。

```
# systemctl stop osstech-mailman
```

マシン起動時に Mailman サービスを自動起動するためには、次のコマンドを実行します。

```
# systemctl enable osstech-mailman
```

Mailman 用 Web 管理画面は、httpd サービスにより提供されます。Web 管理画面を利用する際は、前述の「Apache HTTPD の設定」を実施後、httpd サービスを起動します。

```
# systemctl start httpd
```

Mailman 用 Web 管理画面の停止は次のコマンドで行ないます。

```
# systemctl stop httpd
```

マシン起動時に httpd サービスを自動起動するためには、次のコマンドを実行します。

```
# systemctl enable httpd
```

7 更新履歴

- 2021-12-09 v1.5
 - パッケージのアップデート手順を追加
 - サービスの起動・停止に Mailman Web 管理用 httpd サービスの起動・停止を追加
- 2020-07-28 v1.4
 - 対応 OS に RHEL 8 を追加
- 2017-12-06 v1.3
 - 不要になった記述を削除
 - 他製品で使われていた文章構成に統一
 - Postfix に関する説明を追加
 - install.sh によるインストール手順に変更
- 2015-12-01 v1.2
 - 対応 OS に RHEL 7 を追加
- 2012-03-09 v1.1
 - パッケージ一覧を修正
- 2012-01-18 v1.0
 - 初版